

1 単元名 「さまざまな視点で県を調べよう ～自由な資料集めを手がかりにした福岡県の例～」

2 指導観

- 中学校学習指導要領総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力」をはぐくむことが求められている。また、中学校学習指導要領社会では、「分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養うこと」が求められている。さらに、福岡市授業改善プログラムでは、小学校では、地図を活用して調べる・考える活動の充実が、中学校では、課題を解決するために、考えを深めさせる指導の工夫がそれぞれ求められている。そのために、単元の学習全体を問題解決的な学習過程で行う授業づくりが求められている。「知る」(事実判断)→「わかる」(推理)→「できる」(より深まった事実判断・推理、価値判断)という学習過程を通して、学習に対する有用感や考える力を養う必要がある。

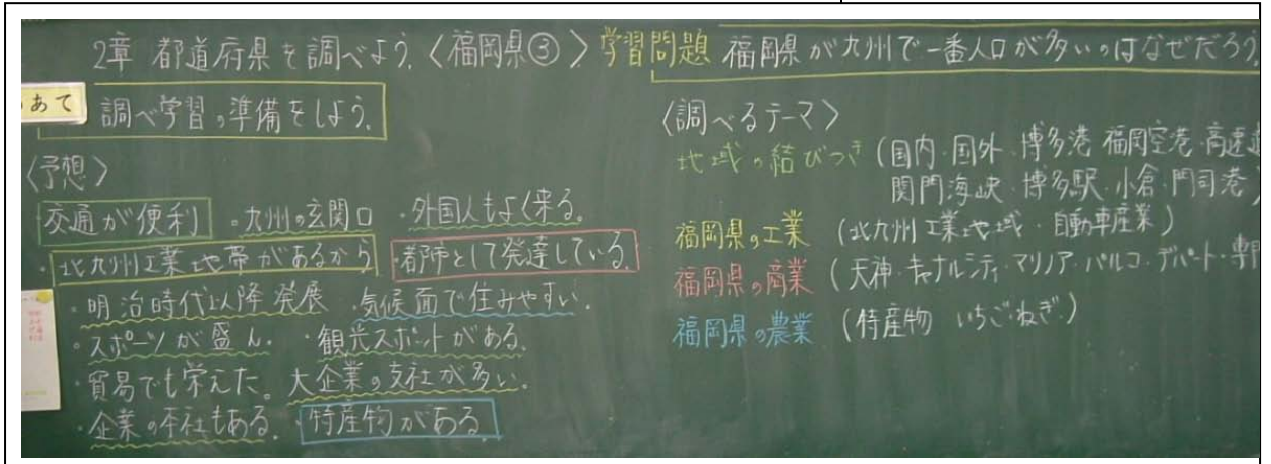
本単元では、作図や描図の効果的な位置づけと工夫をしたり、習得した知識を活用して、自らの考えを整理し再構築したりすることで、これらの課題や要請の解決を図っており、大変意義深いものであると考える。

- 事前調査によると、本学級の生徒は、地図を使った学習について、「とても好き」と答えた生徒が 名、「好き」と答えた生徒が 名いる。また、「社会科の学習で地図や地図帳を使っているか」という問いに対して、「よく使っている」と答えた生徒が 名、「ときどき使っている」と答えた生徒が 名いる。しかし、「地図に色をぬったり調べたことを書きこんだりしているか」という問いに対しては、「あまりしていない」と答えた生徒が 名、「ほとんどしていない」と答えた生徒が 名いる。これらことから、多くの生徒が地図を使った学習について好感をもっており、日常の学習の中でも使用頻度が高いことがわかる。その一方で、読図中心の活動になっており、作図や描図に関する活動が行えていないこともわかる。
- 本単元の指導にあたっては、まず、九州各県の県別面積や県別人口を見て、学習問題をつくる。その際、九州各県の県別面積や県別人口を階級区分し白地図に表す。また、福岡県の人口が増加に転じたのが、高度経済成長期であることをつかませる。次に、追究の視点に沿って調べ、事実をまとめた経過を発表する。その際、白地図を活用し、わかりやすくまとめさせ、発表させる。さらに、条件の変化が立地の変化につながることを捉える。その際、北九州工業地帯の変化に関する白地図に工場の分布を書き込ませることで、1960年と2008年では工場の数や種類、位置が変わっていることに気づき、条件の変化が立地の変化につながると捉えさせる。最後に、学習問題の答えについて話し合い、まとめる。その際、4つの視点についてまとめたことを発表する。また、追究の視点が異なるグループで学習問題の答えを話し合い、自分の考えを発表し全体でまとめる。

3 目標

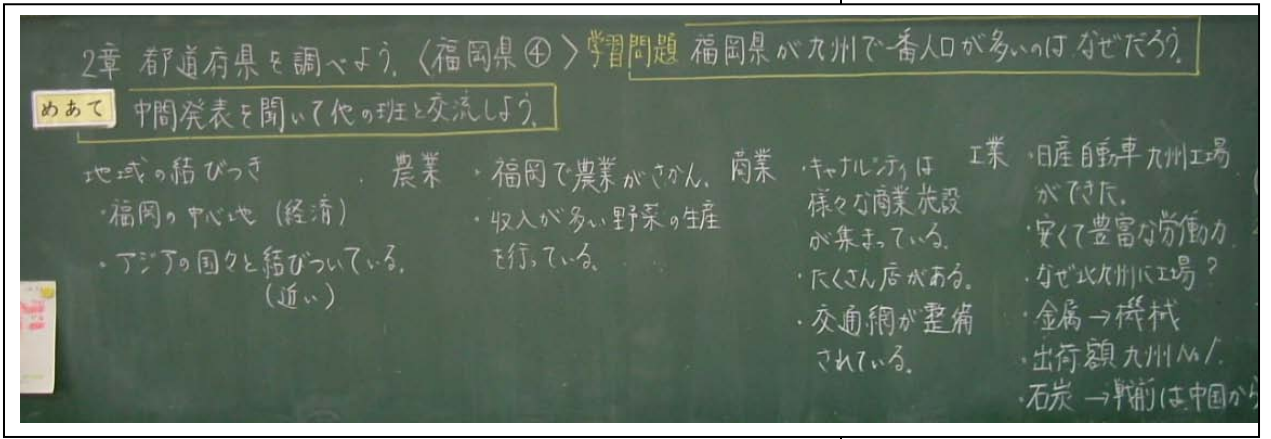
- テーマを決めて、地図や県別統計などの資料を用いた調査に意欲的に取り組み、福岡県の地域的特色をとらえようとしている。
- 福岡県の人口が九州の中で一番多い理由を、福岡県の交通・運輸業、福岡県の工業、福岡県の商業、福岡県の農業の4つの視点から考えることができる。
- 福岡県に関して、人口が多いことと結びつく情報を収集・整理・選択し、わかりやすく説明する表現方法を考え、まとめることができる。
- 都道府県規模の地理的事象を調べる方法として統計資料や地図帳があることを理解している。

(2) 調べる計画を立てる。
 調べる事 (追究の視点) ・地域の結びつき ・福岡県の工業
 ・福岡県の商業 ・福岡県の農業
 調べ方 教科書, 資料集, インターネットなど



さ
ぐ
る

- 4 ① 4 追究の視点に沿って調べ, 事実をまとめる。
 ・教科書や資料集, インターネットを用いて調べる。
- 5 探究活動の経過を発表する。
 地域の結びつき
 ・福岡県は, その地理的な位置から, 中国大陸や朝鮮半島, 九州各県との深い結びつきを通して, 九州地方の中心都市として大きな役割を果たしている。
- ① 福岡県の工業
 ・工業では, 自動車などの機械工業に力を注いでいる。九州地方の中で一番工業出荷額が高い。
- 福岡県の商業
 ・商業では, 人や情報が集まりやすいという立地条件を生かして, 九州地方のなかで一番商業販売額が高い。
- 福岡県の農業
 ・大消費地に近いという立地条件を生かして, 県内の都市や全国向けの農産物の多角化がすすんでいる。



	① 本時	<p>6 条件の変化が立地の変化につながるととらえる</p> <p>(1) 前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>(2) 1960年と2008年の2枚の白地図を見て、気付いたことをまとめる。</p> <p>(3) 飯塚市の総人口のグラフを見て疑問をもち、めあての確認をする。</p> <p>(4) 北九州工業地帯の変化を見て、自動車や金属製品、一般機械、I Cが新たに立地したことをつかませる。</p> <p>(5) 飯塚市の工業・製造業就業者数の変化を見て、飯塚市の人口が減少しなかった理由を考える。</p> <p>(6) 本時の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 条件の変化が立地の変化につながることをつかませるために、北九州工業地帯の変化を白地図上に表す。
	①	<p>7 学習問題の答えを、調べたことを基にまとめる。</p> <p>(1) 変化に対応することで人口が減らなかったり増えたりしている事例がないか調べる。</p> <p>(2) 学習問題の答えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビートルが就航したこと、減反政策による農業の多角化、百貨店の出店や駅ビルの建設が条件の変化に対応していることに気付かせる。
ま と め る	1	<p>8 探究活動の成果を発表し、学習問題の答えについて話し合い、まとめる。</p> <p>(1) 4つの視点について（福岡県の交通・運輸業、福岡県の工業、福岡県の商業、福岡県の農業）、まとめたことを発表する。</p> <p>(2) 学習問題の答えを文章に表す。</p> <p>(3) 追究の視点が異なるグループで、学習問題の答えを話し合う。</p> <p>(4) 自分の考えを発表し、全体でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>福岡県は、その地理的な位置から、中国大陸や朝鮮半島、九州各県との深い結びつきがある。その立地条件を生かして、工業出荷額や商業販売額が九州地方の中で一番高い。また、県内の都市や全国向けの農産物の多角化をすすめるなど、条件の変化にも対応しているため、九州で一番人口が多い。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時での考えの変容や学習問題の答えについて書くように促す。

5 研究内容① 描図や作図の効果的な位置付け

本単元では、確かな考えをもつ生徒を育てるために、問題解決学習のつかむ段階とさぐる段階に地図を次のように活用する。

学習過程	描図や作図の位置付け	作図や描図の活動 (どんな地図に・どのように・何のために)	地 図
つかむ ②	問いを発見し、追究に主体性をもたせるための作図や描図する活動	○ 学習問題をつくるために、九州各県の県別面積や人口を階級区分し、白地図上に表す。	添付資料1 添付資料2

かくる ②	追究の視点に沿いながら、追究に具体性をもたせるための作図や描図する活動	○ 条件の変化が立地の変化につながることをつかませるために、北九州工業地帯の変化に関する白地図に、工場の分布を書き込ませることで、1960年と2008年では工場の数や種類、位置が変わっていることに気付かせる。	添付資料3
----------	-------------------------------------	--	-------

6 研究内容② 作図や描図の活用の工夫

「作図の作り方」に沿った、北九州工業地帯の作図

- 1 目的を明確にする。
 - ・ 条件の変化が立地の変化につながることをつかませるため。
- 2 必要情報をかき込む。
 - ・ 石炭が筑豊炭田から供給されていることを矢印で示す。
 - ・ 凡例を書き込む。
- 3 地図帳をもとに、必要な事実をかき込む。
 - ・ 鉄鋼，自動車，金属製品，一般機械，I Cについて凡例を基に書き込み，色塗りをする。
- 4 地図や資料から読み取れる特徴，その原因を考える。
 - ・ 自動車や金属製品，一般機械，I Cが新たに立地している。
 - ・ 高速道路や高速道路ができた。
 - ・ 総人口の減少に1965年以降歯止めがかかっている。
 - ・ 就業者が鉱業から製造業に変化している
- 5 題名をかく。「北九州工業地帯の変化」

7 本時（6／8時間）平成22年10月 日（ ） 1年 組教室にて

(1) 本時の指導観

前時まで、「福岡県が九州で一番人口が多いのはなぜだろう。」という学習問題をつくり、それぞれの追究の視点にそって調べ、探究活動の経過を発表している。その際、福岡県の工業を調べたグループは、「工業では、自動車などの機械工業に力を注いでおり、九州地方の中で一番工業出荷額が多いから。」としている。そこで、本時では、福岡県が九州で一番人口が多い理由について、条件の変化に応じて立地を変化させていることに気づいていない生徒が、北九州工業地帯の変化に関する白地図に工場の分布を書き込ませることで、1960年と2008年では工場の数や種類、位置が変わっていることに気づき、条件の変化が立地の変化につながるととらえさせることをねらいとしている。

指導にあたっては、まず、前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。その際、中間発表の内容を想起させる。次に、北九州工業地帯の変化を見て、自動車や金属製品、一般機械、I Cが新たに立地したことをつかませる。その際、石炭を輸入するようになったことや1965年までは人口が急激に減少していることに気づかせる。また、鉄鋼、自動車、金属製品、一般機械、I Cのそれぞれについて色塗りをさせることで分布に気づかせる。さらに、飯塚市の工業・製造業就業者数の変化を見て、飯塚市の人口が減少しなかった理由を考える。その際、総人口の減少に1965年以降歯止めがかかっていることや就業者が鉱業から製造業に変化していることに気づかせる。最後に、本時の振り返りを行う。その際、福岡県の交通・運輸業、福岡県の商業、福岡県の農業の視点で、変化に対応することで人口が減らなかつたり増えたりしている事例がないか調べるように促す。

(2) 主眼

- 福岡県が九州で一番人口が多い理由について、条件の変化に応じて立地を変化させていることに気づいていない生徒が、北九州工業地帯の変化に関する白地図に工場の分布を書き込ませることで、1960年と2008年では工場の数や種類、位置が変わっていることに気づき、条件の変化が立地の変化につながるととらえることができる。

(3) 準備

北九州工業地帯の変化の白地図（1960年・2008年）、凡例カード、地図帳、飯塚市の工業・製造業就業者数の変

(4) 過程

学習活動と内容	分析細目	指導上の留意点
<p>1 前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>2 1960年と2008年の2枚の白地図を見て、気づいたことをまとめる。</p> <p>(1) 1960年の地図を見て、石炭が筑豊炭田から供給されていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 八幡製鉄所がつくられた背景は、中国の鉄鉱石と筑豊炭田の石炭を利用していたこと。 筑豊地方は石炭産業（炭坑）で栄えていた。 <p>(2) 2008年の地図を見て、石炭を輸入するようになったことでどのような変化が起きるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筑豊地方の人口が減るのではないか。 働く場所がなくなるのではないか。 <p>3 飯塚市の総人口のグラフを見て疑問をもち、めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、飯塚市の人口は減少しなかったのか考えよう。</p> </div> <p>4 北九州工業地帯の変化を見て、自動車や金属製品、一般機械、I Cが新たに立地したことをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場の数が増えている。 工場の種類が増えている。 工場の位置が変わっている。 高速道路ができた。 空港ができた。 <p>5 飯塚市の工業・製造業就業者数の変化を見て、飯塚市の人口が減少しなかった理由を考える。</p>	<p>【分析細目1】 工場の位置を作図させたことは、自動車や金属製品、一般機械、I Cが新たに立地したことをつかませる上で有効であったか。</p> <p>【分析細目2】 工場の位置を作図させたことと飯塚市の工業・製造業就業者数の変化のグラフを提示したことは、炭坑はなくなったが、鉱業から製造業へ産業を転換したため、働く場所がなくならなかったため、人口が減少しなかったことを捉えさせる上で有効であったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表の内容を想起させる。 筑豊炭田からの矢印を提示することで、石炭の供給先が筑豊炭田であることに気付かせる。 1960年と2008年の地図を見比べさせ、筑豊炭田がなくなっていることに気付かせる。 飯塚市の総人口のグラフを1965年まで見せ、人口が減少していることに気付かせる。 総人口の減少に1965年以降歯止めがかかっていることに気付かせる。 1960年の地図に凡例に基づいた分布を示す。 凡例を書き込む。 1960年の地図と2008年の白地図に、板書や地図帳を見ながら鉄鋼、自動車、金属製品、一般機械、I Cのそれぞれについて記号を書き込み、色塗りをさせ、分布に気付かせる。 作業を通して自動車や金属製品、一般機械、I Cが新たに立地したことをつかませる。 白地図にタイトルを書き込む。 鉱業から製造業に変化していることに気付かせる 福岡県の交通・運輸業、福岡

<div data-bbox="92 159 501 322" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>炭坑はなくなったが、鉱業から製造業へ産業を転換したため、働く場所がなくならなかったため人口が減少しなかった。</p> </div> <p>6 本時の振り返りを行う。</p>		<p>県の商業、福岡県の農業の視点で、変化に対応することで人口が減らなかったり増えたりしている事例がないか調べるように促す。</p>
---	--	--

(5) 授業仮説

福岡県が九州で一番人口が多い理由について、条件の変化に応じて立地を変化させていることに気付いていない生徒が、北九州工業地帯の変化に関する白地図に工場の分布を書き込ませることで、1960年と2008年では工場の数や種類、位置が変わっていることに気づき、条件の変化が立地の変化につながるととらえられるであろう。